

SDGs とか地球温暖化など、環境に関する言葉が新聞やニュースで報道されています。

人間の生活が地球全体の環境に大きな影響を与えていることが分かり、このままでは、地球の環境が壊れてしまうのではと心配されています。

地球上の生き物たちはお互いに影響しあって密接な関係にあることは聞いた事ありますか？

これを生態系と言います。豊かな生態系を維持してゆくには豊かな自然環境を守る事が大切だと国際会議で話し合われました。

現在は『30by30』の取り組みが実行されています。
内容は、『2021年G7サミットで、2030年までに国土の30%以上（陸と海）を自然環境エリアとして保全する約束です』

朝霞の黒目川には上流部の新座や東久留米ではみかけない鳥や植物があります。
私たちの街には、どんな植物や生きものがあるのか？

その目で確かめてください！

《黒目川にいる鳥たち》

どこにいる？何を食べている？

- カルガモ
- カワセミ
- セグロセキレイ
- キセキレイ
- ハクセキレイ
- ジョウビタキ
- モズ
- ムクドリ
- ヒヨドリ
- ドバト（カワラバト）
- キジバト



ダイサギ

- ハシブトカラス
- ハシボソカラス
- イソヒヨドリ
- イカルチドリ
- コチドリ
- カイツブリ
- カワウ
- コサギ
- ダイサギ
- アオサギ
- ミサゴ

《冬に来る鳥たち》

- マガモ
- オナガガモ
- ヒドリガモ
- ハシビロガモ
- コガモ
- ヨシガモ
- オカヨシガモ
- タヒバリ
- タシギ（右写真）

《夏に来る鳥》

- ツバメ
- イワツバメ
- コアジサシ
- 《市内の街や森にいる鳥（留鳥、漂鳥）》
- アオゲラ
- コゲラ



マガモ ♂ ♀



タシギ

シジュウカラ
エナガ
オナガ
ツミ

《新河岸川、荒川、彩湖で見られる鳥》

ゴイサギ (右写真)
ユリカモメ
セグロカモメ
冬に来る鳥
カンムリカイツブリ
キンクロハジロ
ホシハジロ
ミコアイサ
スズガモ
オシドリ
オオタカ



ゴイサギ

《黒目川の植物》

まずは花の形に注目！サクラみたい？スマレの様に左右対称？
次に、葉の形や付き方、触って、葉の感触や茎の様子に注目してください。
※☞ 在来種との交雑や繁殖力が強く環境への影響が大きい

・イネ科
ヨシ
エノコログサ
セイバンモロコシ
カヤツリグサ
・キク科
キクイモ
アメリカセンダングサ

ハハコグサ
ノボロギク
ハルジオン ☞
ヨモギ

・ウリ科
アレチウリ
カナムグラ
カラスウリ

・マメ科
カラスノエンドウ
スズメノエンドウ
ナヨクサフジ ☞
カスマグサ
ネムノキ
サイカチ

・シソ科
オオバコ
ヘラオオバコ ☞
オオイヌノフグリ ☞
オオカワジシャ ☞
カキドオシ
ヒメオドリコソウ
ホトケノザ

・スマレ科
スマレ
・セリ科
セリ
オヤブジラミ



アレチウリとオオバコが護岸を覆う



オオカワジシャ

- ・ウコギ科
 - ウチワゼニクサ 罌
- ・ナス科
 - ワルナスビ 罌
- ・ヒルガオ科
 - ヒルガオ
- ・タデ科
 - スイバ
- ・アブラナ科
 - ナノハナ
- ・ツユクサ科
 - ツユクサ
- ・ハエドクソウ科
 - ムラサキサギゴケ
 - ミゾホオズキ
- ・キンポウゲ科
 - ケキツネノボタン
 - タガラシ
- ・スイレン科
 - コウホネ

- ・樹木
 - サイカチ
 - アカメガシワ
 - オニグルミ
 - ハンノキ
 - クワ



ミゾカクシ



タガラシ、小さいが可憐な花

植物は地域ごとに特性が表れます。
 植物の種類や群落の特性のことで、特に川沿いの様な湿地域では植物相に多様性があります。上流から下流までの流域に同じ植物が多く見られる。
 川の流れや棲んでいる動物や鳥によって種が運ばれる為です。

黒目川で注目する樹木は、
 サイカチ、オニグルミ、ハンノキ。
 サイカチは、黒目川の源流点は東村山市の小平霊園内にあって、さいかち窪といいます。現在の水量は少なく、水は目に見えません。以前はさいかちの木があったそうですが現在はありません。
 その数百メートル下流の川沿いの森にはサイカチの木があります。
 また、新河岸川との合流部、田島緑地と対岸にもサイカチの大木があります。



田島緑地

《黒目川終点》

田島緑地にあるサイカチの木
 左から右に新河岸川、右から左に黒目川の合流点。
 その先に朝霞水門、左奥手に荒川にかかる幸魂大橋が見える。



さいかち窪

《黒目川源流点》

さいかち窪に現在はサイカチの木はありません。川沿いを数百メートル下ると、民間の駐車場との境にサイカチの木があります。さいかち窪の木の子孫と思われる。



サイカチの木

《消えてゆく在来種》

春に咲く花、一面の黄色い花。
何をイメージしましたか？タンポポ、菜の花、ヘビイチゴ。

黒目川に隣接する田んぼ、現在は畑に転作されたりしていますが、田んぼの水路沿いには、水辺を好むキンポウゲ科の黄色い花が見られます。ケキツネノボタン、タガラシ、ウマノアシガタ
川沿いではほとんど見かけなくなりました。



ウマノアシガタ

《朝霞市内で残された希少植物》

川沿いなどの湿地には、
ケキツネノボタン、タガラシ、ミゾカクシ、ネコノメソウ、ミゾホオズキ、ホトトギス、イチョウウキゴケ、ナガエミクリ、タコノアシ、ハンゲシヨウ、コウホネ、アマチャヅル、ムシクサ、コナスビ、イヌトウバナ
斜面林には、
ウラシマソウ、ヤマユリ、ニリンソウ、キンラン、ギンラン、サイハイラン、タシロラン、キッショウソウ、ジュウニヒトエ、オドリコソウ



イチョウウキゴケ（絶滅危惧種）

市内の田んぼで生息。
田んぼも除草剤や農薬の影響で植物や生きものが激減している。

《蝶と植物》

街でよく見かける蝶は何？

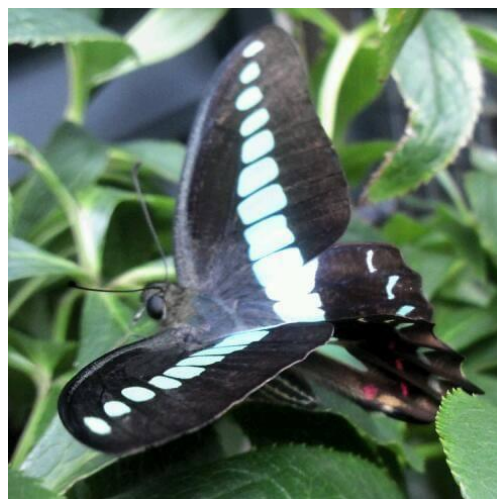
モンシロチョウ、アゲハなどよく目にします。



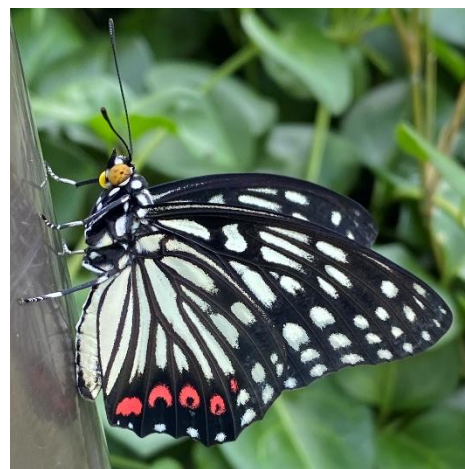
ちゃんと、理由があります。
幼虫の時のエサと成虫のエサが街には揃っているからです。

モンシロチョウの幼虫は、キャベツやブロッコリーの葉を食べて、成虫は花の蜜を吸います。

アゲハはの幼虫は柑橘類の葉を食べて成虫は花の蜜を吸います。



アオスジアゲハの幼虫は、アオダモなどの街路樹の葉を食べます。



アカボシゴマダラ。人為的な放蝶で生息が拡大して在来種の驚異となっています。



幼虫はエノキやムクノキを食べます。成虫は樹液を吸います。
街中よりは公園や斜面林で見かけます。

この蝶は見かけたことありますか？

朝霞の森にいました。

ルリタテハの幼虫はサルトリイバラの葉を食べます。

市内ではほとんど見かけない植物ですが、ルリタテハがいれば、近くにサルトリイバラがあります。近くを探すと、一本生えていました。



生きものたちはお互いに密接な関係を持っています。
環境は大きく変化しています。
朝霞にはとても豊かな自然環境があります。昔はいた、今はいない。
隣の街にいない、でも、ここにはいる。何故でしょう？
よりよい街を作りましょう♪

《外来生物は悪いものですか？》

●テレビのニュース見ましたか？

ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニが特定外来生物に指定されました。

2023.6.1 からです。

※特定外来生物とは？

- ・飼養、栽培、保管、運搬（飼養等）の禁止（大臣の許可が必要）
- ・許可者以外への譲渡禁止
- ・野外への放出等の禁止（大臣の許可が必要）
- ・国、都道府県は公示して防除を実施
- ・市町村、民間等は国の確認、認定を受けて防除と、環境省のホームページの記載されています（抜粋）

ミシシippアカミミガメとアメリカザリガニは『条件付特定外来生物』です。

- ・販売、頒布目的の飼養等禁止
- ・販売、頒布、購入、輸入、放出等のみ禁止です。

わかりやすく説明します。

- ・このカメとザリガニは飼うのは良いけど川に逃がすのはダメ。
- ・売り買いもダメです。

●アライグマの捕獲

今年の夏は朝霞市内でもアライグマの農業被害が拡大しました。家庭菜園や農家の

トウモロコシが食害されました。私の家庭菜園でも収穫間近のトウモロコシが全て食害されました（30本）。

写真は和光市の家庭菜園で撮影した写真です。（6月30日）

利用者が市に依頼して捕獲檻を設置。子どもアライグマ2頭が捕獲されました。この後、市の職員が引き取り処分されました。



野生鳥獣による被害を防ぐために

環境推進課 ☎463-1504

春から秋にかけて、野生鳥獣は繁殖期を迎えるため、活動が活発になると同時に、家園に巣を作られてしまい、ふんなどで困っているといった人の暮らしへの被害相談も多く寄せられます。市内にも多く生息するカラスやハト、ムドリなどの野生鳥獣は、鳥獣保護法により守られており、むやみに捕獲や駆除することはできません。以下の防除対策をすることで被害を未然に防ぎましょう。

✓食料を与えない！

ごみの出しのルールを守る。

- ・収集日当日の決まった時間までにごみを出す。（既出済みは回収しない）
- ・生ごみは袋に入れて、外から見えないように工夫をする。
- ・袋はきちんと閉じ、グリーンネット[®]で、しっかり覆う。
- ・グリーンネットは資源リサイクル課（☎456-1593）で貸し出します。ご希望の方はお問い合わせください。



ペットのエサもきちんと管理する。

- ・庭やベランダで保管するペットのエサを取られないように注意する。
- ・エサを置いたままにせず、時間と場所を決め、残ったエサはすぐに片付ける。

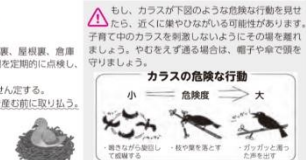
✓ねぐらを作させない！

場所を与えない。

- ・戸口の戸袋やエアコン室外機の裏、屋根裏、倉庫周りなど、動物が入り込める隙間を定期的に点検し、清掃する。
- ・二股、三股になっている枝木をせんできる。
- ・巣を作り始めてしまったら、巣を壁に取っ払う。

巣材を与えない。

- ・屋外に針金ハンガー等を出したままにしない。



特定外来生物アライグマにご注意ください

アライグマは、外来生物（もともと日本にいなかった生物）の中でも、特に地域の自然に大きな影響を与え、もともといた動物や植物を脅かす侵略的外来生物（＝特定外来生物）として法律で指定し、カラスやハトと違って、国内においては駆除の対象となっています。アライグマによる被害がある場合は、環境推進課までお問い合わせください。



近所の農家でも甚大な被害が出ました。

電気柵を設置してアライグマを追い払う対策をしています。

●私の思い

日本には里山があります。農耕を中心にした自然と共生をする営みであり、その上に文化や信教があります。世界に類の無い先人からの贈り物です。

誰が言ったのか分かりませんが、心に残る言葉があります。『今の地球は未来の子ども達から借りているんだ。借りた物はそのままの姿で返さなければならない。』

未来に何を残せるかを考える時だと思えます。

朝霞市の広報あさか 2020.4月号のページです。

今年の6月号には下の枠で囲んだ部分だけ記載されました。

記事の内容を説明します。野生の鳥や生きものは鳥獣保護法で保護されていますが、特定外来生物のアライグマは捕獲して駆除します。在来のタヌキや外来生物ですがハクビシンは駆除しません。

朝霞市の担当課に現状を問い合わせました。昨年より被害や問い合わせが増えていて、令和4年は76頭、令和5年、5月末現在15頭、捕獲したそうです。

